

2019 年度

ミラークよこすか

事業報告

社会福祉法人 電機神奈川福祉センター



目次

1. 事業の概要

- (1) 目的..... 3p
- (2) 法人設立と施設設置の経緯 3p
- (3) 施設概要 3p
- (4) 2019 年度事業目標と年度末事業結果 5p

2. 2019 年度事業報告

(1) 就労移行支援事業

- ① 利用者の状況 6p
- ② 訓練プログラム 11p
- ③ 就労支援 19p

(2) 就労定着支援事業 21p

3. 2020 年度事業目標 24p

1. 事業の概要

(1) 目的

障害を持つ人が社会自立できるよう支援すること。

(2) 法人設立と施設設置の経緯

1972 年、電機連合神奈川地方協議会（以下、地協と呼ぶ。）は、第 20 回定期大会において、労働組合としては全国に先駆けて障がい福祉活動を開始しました。地協は、神奈川県内の電機・電子・情報機器関連産業に働く組合員で組織された産業別労働組合です（2015 年 3 月末現在 109 単組・支部、組合員数 75,736 人）。障害をもつ人も「ともに学び、遊び、育ち、働き暮らせる社会」を目指した障がい福祉活動は、国際障害者年の理念でもある「ともに生きる社会づくり」への大きな潮流につながりました。

この活動を 20 年にわたり続けてきた間に、障害をもつ子どもたちの育ち学びあう場は広がり、選択できるようになってきました。しかし、学校卒業後の進路は依然として厳しい状況が続いていました。

そこで、地協の障害福祉活動のさらなる展開として、社会福祉法人の設立を目指し、1991 年に「電機神奈川福祉センター設立準備委員会」を設置し、1995 年 3 月に神奈川県より社会福祉法人の認可を受けるに至りました。

法人設立前の 1992 年には「横浜南部就労援助センター」が事業を開始し、法人設立後の 1996 年には横浜市に「通所授産施設 ぽこ・あ・ぽこ」が事業を開設しました。その後、川崎地域、湘南地域でも事業を展開し、障害者の社会自立や一般就労を中心に支援を行ってきました。

2013 年に新たな事業展開を目指し、調査の結果、横須賀地域での障害福祉サービス事業所開設に向けた準備を開始します。2014 年 10 月に設置した「横須賀新事業所開設準備室」を経て、2015 年 1 月 1 日に「ミラークよこすか」は事業を開始しました。

(3) 施設概要

【事業所指定】（2015 年 1 月より）

- 法的根拠：障害者総合支援法
- 事業指定者：横須賀市長

- 事業所番号（サービス種類）：1411901760 [就労移行支援事業・就労定着支援事業]
2017 年 4 月 1 日：自立訓練事業（生活訓練）廃止、就労移行支援事業増員
2018 年 7 月 1 日：就労定着支援事業開始
- 指定日・事業開始日：2015 年 1 月 1 日

【利用対象者】

- 原則として 65 歳未満の知的障害者・精神障害者
- 定員：就労移行支援事業 20 名（2017 年 4 月 1 日変更）

所在地	横須賀市大滝町 2-15-1 横須賀東相ビル 6 階		
交通機関	京浜急行線 横須賀中央駅より徒歩 4 分		
Tel	046-821-3450	Fax	046-887-0480
開設年月日	2015 年 1 月 1 日		
建物構造	鉄筋コンクリート造 9 階建（横須賀東相ビル内）		
面積	専用部分 219.17 m ²		
設備内容 （共用部分）	食堂・訓練室 1・訓練室 2・男性ロッカー・女性ロッカー・倉庫・事務室・相談室・ （男性トイレ・女性トイレ・給湯室）		

(4) 2019 年度事業目標と年度末事業結果

2019 年度 目標	2019 年度 結果
重点目標	
● 2018 年度下期に実施した支援プログラム改定(作業プログラムの充実、個別プログラムの新設)後の支援を安定させるとともに、多様なニーズへの対応ができるようプログラムの運営方法の調整を行います。 ● 精神障害者の利用増加を見越し、医療関係機関との連携強化に努めます。 ● 事業開始 2 年目を迎える就労定着支援事業の安定したサービス提供に努めます。	● 新プログラムを活用する既存の利用者が増加したことに加え、新プログラム実施を想定して利用を開始する方も増えてきました。また、職員の週間業務スケジュールの設定等、職員同士がそれぞれの状況把握をしやすい環境を整備し、プログラムが多様化しても円滑に運営できるように努めました。 ● 地域の医療機関が開催する研修会や情報交換会等に継続的に参加し、スキル習得や情報交換を行いました。 ● 支援実施率は 98%でした。事業所内支援の体制を整えるとともに、職員間の情報交換を密にし、就労定着支援員が企業訪問等の日程を調整しやすくなるよう努めました。
1) 就労移行支援事業 (20 名定員)	
● 新規利用者 14 名の受け入れを目指します。 ● 1 日あたりの平均利用者数 17 名以上を目指します。 ● 年間 9 名の就労者を輩出します。(上半期: 5 名、下半期: 4 名) ● 8 名の利用者に施設外実習の機会を提供します。 ● 医療機関との連携を強化し、精神障害者の受け入れや支援の充実に努めます。 ● 平成 30 年度中に改定した支援プログラムの安定的な運営を図るとともに柔軟な活用方法を検討していきます。	● 16 名の新規利用者を受け入れました。 ● 1 日あたりの平均利用者数は 18.1 名でした。 ● 就労者は 7 名となり目標を下回りました。(上半期: 3 名、下半期 4 名) ● 17 名の利用者に施設外実習の機会を提供しました。 ● 医療機関が実施する情報交換会や研修等に定期的に参加し、連携の強化とスキルアップに努めました。 ● 特に在宅生活が長い利用希望者への支援内容を提案する際等に改定したプログラムを活用しています。また、体験利用時のプログラム作成をご本人主体で行う等、新たな取り組みも開始しました。
2) 就労定着支援事業	
● 就労定着率 90%以上 (基本報酬算定基準による)を目指します。	● 就労定着支援事業利用中の方の内 1 名が退職となりました。3 月末時点の就労定着率は 94.3%でした。

● 利用者に対するサービス提供実施率 90%以上を目指します。 ● 利用者や就労先の状況に応じて柔軟な支援方法でサービス提供ができるよう努めています。 ● 支援対象者の増加に対応すべく、就労者向けイベント運営方法や適正な人員配置を検討するとともに、職員が支援を実施しやすい環境となるよう心がけていきます。	● サービス提供実施率は98%でした。 ● 同窓会を2回実施するとともに企業訪問、就労先以外での面談等、利用者の状況に合わせた支援を行うよう努めました。年度終盤はコロナウィルスの影響でイベントの中止や対面支援を自粛し、電話等で支援を行う機会が増加しました。 ● 就労移行支援事業との兼務で2名の職員を就労定着支援事業に配置し、就職から定着支援へスムーズに移行ができるよう配慮しました。毎月、定着支援の状況を報告・確認する機会を設けるとともに、事業所内支援の担当職員との円滑な情報共有ができるよう努めました。
--	---

3) 運営全体

● 新規利用者獲得に向けて、関係機関への定期的な訪問等による情報発信を行います。 ● 情報サイトの更新などを適宜行い、当事者の方に直接働きかける営業活動を充実していきます。 ● 日々のミーティングで日常的な振り返りや職員間の情報共有を行うとともに、就労移行支援事業利用者全員に対して月に1回ケース会議を実施し、目標達成状況の評価や支援の方向性について検討を行います。 ● 年間20名以上の実習生を受け入れます。 ● 事業所内における災害ゼロを目指し、職員・利用者共に安全に対する意識向上に努めます。 ● 部署内研修を実施するとともに、キャリアパス対応研修を始めとする外部研修を活用し、職員個々のスキルアップを図ります。 ● 事業所内のレイアウトやインテリアなどに配慮し、利用者や見学者が過ごしやすい環境作りに努めています。	● 三浦半島・横浜南部地域を中心に、延べ43件の訪問による広報活動を行い、事業所状況等をご説明する機会を設けました。訪問先からのご紹介やご相談を受ける機会も多くなりました。 ● 2019年9月に情報サイトのブログ機能を使った情報発信を開始しました。週1回程度更新し、訓練内容や就活に関する記事を24件掲載しました。 ● 職員ミーティングを毎日開催し、日常の情報共有の場としました。また、就労移行支援事業の利用者全員のケース会議を毎月開催し、支援の方向性や個別支援計画の検討・共有を行いました。 ● 実習生30名を受け入れました。 ● 通院を伴う事故が1件発生しました（利用者が資材の入った段ボールに躓き、転倒し打撲）。資材の置き場所を部署内で検討し、事故が起こりにくい配置へと変更しました。 ● 外部研修は主催者都合の中止等が重なり、参加は申し込みの半分の4件でした。部署内研修は月1回の開催を目標とし、年間10回開催しました。 ● 観葉植物の設置や、インテリアに季節感を出す等、見学者や利用者が過ごしやすい環境作りに努めました。また、訓練室に可動式パーテーションを設置し、2つのプログラムを同時に行う際にそれぞれに影響が出にくいよう配慮しました。
---	--

2. 2019 年度事業報告

(1) 就労移行支援事業

① 利用者の状況

2019 年 4 月は 9 名の新規利用者を迎え、21 名でのスタートとなりました。年間を通して新たに利用を開始した方は 16 名であり、これは前年度を上回っています。年度終盤はコロナウイルスの影響が徐々に初めましたが、本格的な影響は 2020 年度になると見込まれます。

就職者数は 7 名と前年度の 9 名を下回る人数となりました。要因としては、前年度に利用者数が減少し、年度前半に就職にチャレンジする方の人数が減少したことが考えられます。当事業所では、2016 年度から 2018 年度の 3 年間で 30 名を一般企業等へ送り出していますが、新規に利用される方の人数が就職される方の人数に追いつかず、徐々に利用者数が減少している状況でした。2018 年度は特にその状況が顕著に表れ、年間を通した 1 日あたりの平均利用者数は 12.9 名と定員の 20 名を大幅に下回る結果となりました。2019 年度は、1 日当たりの平均利用者数は 18.1 名と、前年度から大幅に増加しています。月ごとの契約人数は年平均で概ね 20 名程度ですが、利用者の中には、週 3 日前後の利用をあらかじめ設定して利用している方も複数おり、体調不良での欠席なども含めて、日々の利用人数は契約人数よりも 10%程度少なくなっています。平均利用者数が増加し、就職へチャレンジする方も増えているため、通常であれば次年度は就職者数の増加が見込まれます。ただし、コロナウイルスの影響により予想が大変難しい状況です。

就職以外で退所される方も毎年数名おり 2019 年度は 5 名の方が就職以外の理由で退所されました。退所理由は、就職活動を休止する、ご家庭等の事情によるもの、通所継続が困難等があげられます。2019 年度は例年と比較し、就職以外での退所人数が多くなりました。後述しますが、長期間在宅生活であった等、通所そのものへ不安を抱える方の相談が年々増加していることも影響していると考えられることから、事業所内の環境整備や今以上に様々な事情に合わせた支援ができるよう、支援体制を強化する取り組みを開始し対策にあたっています。

表 1.月別利用者動向 就労移行支援事業（前年度実績）

（単位：名）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規利用		9 (5)	2 (1)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (1)	1 (1)	0 (2)	16 (13)
退 所	就労	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (3)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (1)	2 (1)	0 (0)	1 (0)	7 (9)
	その他	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	6 (4)
利用者数		21 (17)	22 (17)	23 (17)	22 (16)	22 (18)	22 (15)	21 (17)	20 (15)	20 (12)	19 (14)	18 (13)	17 (14)	

利用者数：月内に登録があった方の人数

◆ 利用される方の年齢層について

新たにミラークよこすかを利用される方が最も多いのが年度初めである 4 月です。その多くが 3 月に高等学校等を卒業した方で、10 代の方が中心です。年度途中に利用を開始される方は、離職し再就職を目指す方や、しばらく働くことから遠ざかっていた方の利用が多くなっています。

す。年齢層は 20 代から 50 代まで幅広いですが、毎年比較的 20 代の方が多い傾向にあります。

年間を通しての年齢層は 20 代が全体の 60%以上を占め、次いで 10 代が多くなっています。

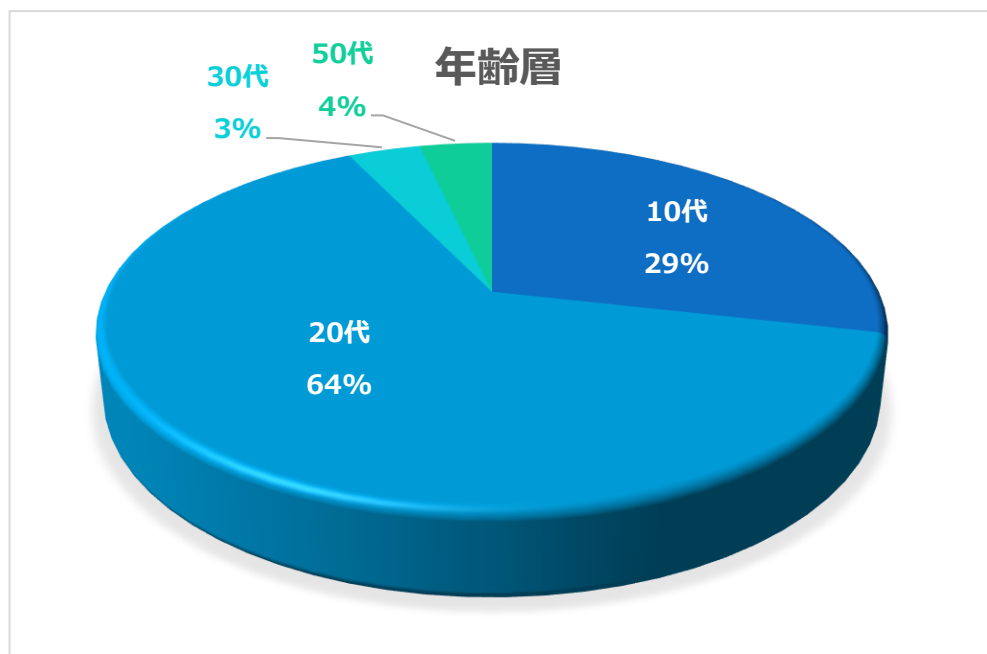


図 1.利用者の年齢層（2019 年度中に利用実績のあった方）

◆ 利用される方の障害種別について

ミラークよこすかは障害種別による利用の制限は行っておらず、事業所の環境やプログラムに合う方は原則受け入れを行っています。2019 年度の利用者の障害種別は知的障害が最も多く、全体の 70%ほどを占めています。次いで精神障害が 20%程であり、身体障害や障害者手帳を取得していない方も利用されています。この障害種別は時期や年度により変化し、知的障害の方の利用が 50%程度になり、精神障害の方の利用が 40%程度になる場合もあり、ニーズに合わせて、幅広く利用していただけるよう支援プログラムの設定や改訂を適宜行っています。

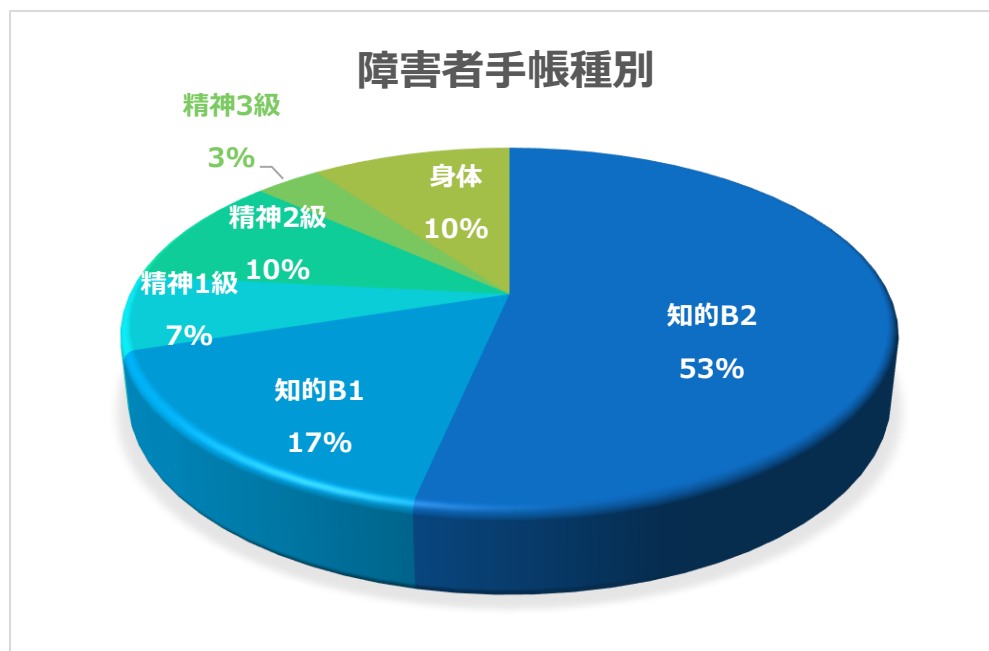


図 2.利用者障害種別（2019 年度中に利用実績のあった方）

◆ 利用される方の居住地等について

横須賀市内には、京浜急行線と JR 横須賀線が通っています。ミラークよこすかは京浜急行線の横須賀中央駅が最寄り駅で、徒歩 5 分程度の場所にあります。また、横須賀市内のバスは、横須賀中央駅前を經由し、各所に路線が引かれているところが多いため、バスを利用して通所されている方も多くいます。交通の便は比較的良好な立地と言えます。JR 横須賀線は、最も近い横須賀駅まで徒歩 20 分程度と少し距離があるため、JR 横須賀線を利用して通所される方は多くありません。

利用者の居住地は、横須賀市内と隣接する地域からがほとんどです。最も多いのは、事業所の所在地である横須賀市からの通所者で 60%近くを占めます。次いで横浜市が 30%程度であ

り、そのほぼ全てが京浜急行線沿線である磯子区と金沢区からの通所です。逗子市、葉山町から通所される方もおりますが、ミラークよこすかまでの交通の便がやや悪い点が影響しているためか全体の10%程度に留まります。

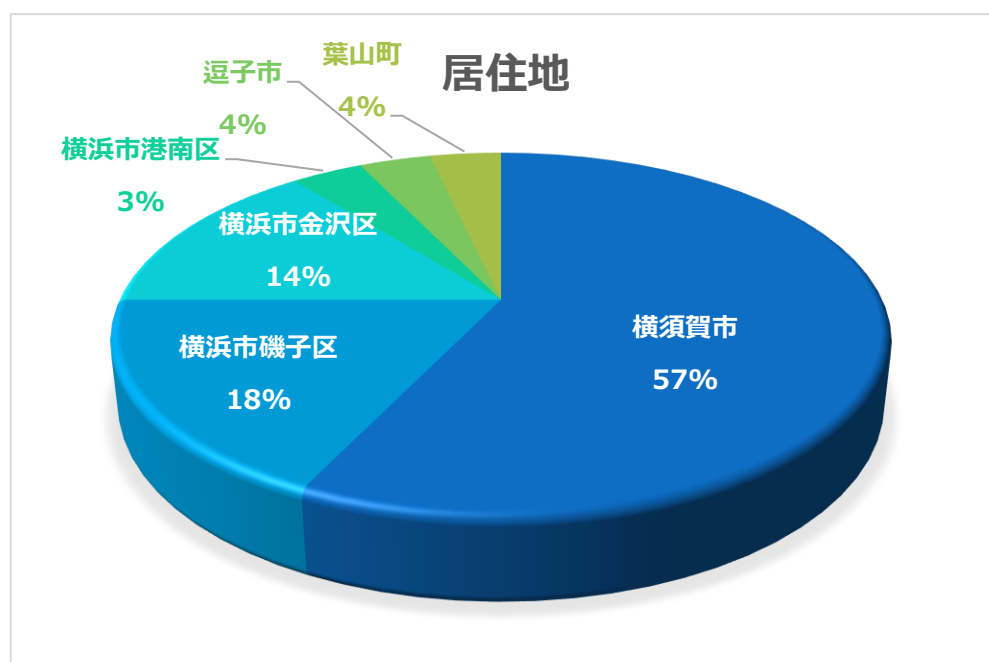


図 3.利用者の居住地（2019 年度中に利用実績のあった方）

■ 就労アセスメント

就労継続支援事業 B 型の利用希望者に対して就労移行支援事業所が実施する就労アセスメントを 2015 年度より実施しています。2019 年度は、養護（特別支援）学校の生徒 5 名に対し実施しました。就労アセスメントは、就労の可能性を評価することを目的に 1～2 週間の期間、利用契約を締結し行っています。高等部 3 年生の年末から年度末の卒業間近での実施希望者が多く、また横須賀市内在住の方の利用がほとんどを占めています。

表 2 .就労アセスメントの実施状況

紹介先	人数	居住地	人数
養護（特別支援）学校	5 名	横須賀市	4 名
		横浜市金沢区	1 名

② 訓練プログラム

ミラークよこすかの開所時間は、通常 9 時～15 時で、利用されるご本人の状況に応じて利用時間を決定しています。利用時間内は 4 つのコマに分かれており、それぞれのコマの間に休憩時間を設けています。

<ミラークよこすか週間スケジュール>

	月	火	水	木	金
9:00～9:05	体操・朝礼				
9:05～9:15	ストレッチ				スピーチ
9:15～10:30	【1 コマ】トレーニング（作業訓練/個別トレーニング）・就職ナビゲーション				
10:30～10:45	休憩				
10:45～12:00	【2 コマ】トレーニング（作業訓練/個別トレーニング）・就職ナビゲーション				
12:00～12:45	昼休憩				
12:45～13:45	【3 コマ】トレーニング（作業訓練/個別トレーニング）・講座				
13:45～13:55	休憩				
13:55～14:55	【4 コマ】トレーニング（作業訓練/個別トレーニング）・講座				
14:55	終礼・日誌記入				

開所当初は限定的な支援プログラムでしたが、現在は多様な課題やニーズに対応するため、作業訓練・講座・個別トレーニング・就職ナビゲーション等、様々なプログラムを活用して支援を行っています。

◆ 作業訓練

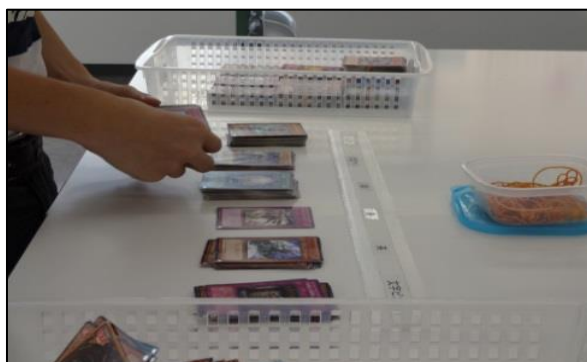
作業訓練では、就職を目指すことに専念するため、外部の企業等から請け負う作業はあまり行わず、主に事務作業や軽作業などの模擬作業を行っています。様々な模擬作業を通して、働くためのリズムを整えたり、ご自身の課題を認識していただいたりする場としています。模擬作業等により、ある程度働くイメージが付いた方に対しては、施設外作業等の請け負い作業を行っていただき、実際の仕事により近い環境で経験を積んでいただいています。

<主な作業訓練>

【CD 検品】



【トレーディングカード仕分け】



【ビーズ組み合わせ】



【納品チェック】



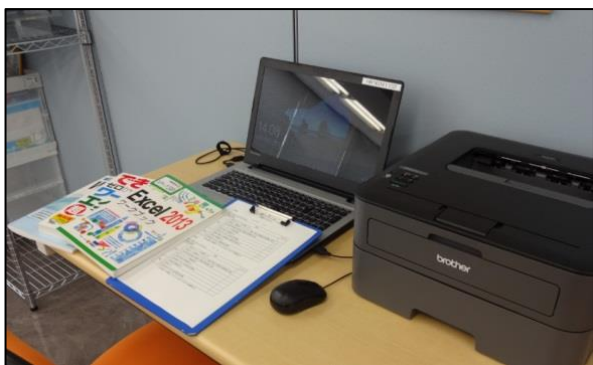
【ピッキング】



【メール仕分け】



【事務】



【環境整備】（清掃）



◆ 講座

講座プログラムでは、ビジネスマナーやコミュニケーション等に関する講座を開催しています。

毎日午後の2コマを講座の時間としており、開催スケジュールに沿って各講座が週1回ずつ開催されます。各講座は全12回（一部6回）、3か月間で完結し、これを年間4回（4月～6月、7月～9月、10月～12月、1月～3月）開催しています。講座の受講は選択制で、利用されているご本人の

希望や課題感に応じて職員と面談の上、決定しています。また、受講講座は3ヶ月ごとに見直しを行います。

<ミラークよこすか 講座一覧>

講座名	開催頻度	講座のねらい	内容
ビジネスマナー スタートアップ	毎週開催	基礎的なビジネス マナーの習得	「挨拶」「身だしなみ」「話し方」「社会人としての心がまえ」など、ビジネスマナーの基本を講義と練習で学びます。
ビジネスマナー ステップアップ	毎週開催	ビジネスマナーを 自身の強みとする	職場でふさわしい言葉づかいや態度、飲み会でのマナーなど、場面に応じたビジネスマナーを講義と練習で学びます。
楽しく元気に働くための 生活講座	毎週開催	自立した生活送る ための力の習得	生活するためのお金や、働くための生活リズムなど、暮らしの中で必要になることをシミュレーション形式で一緒に考えます。
コミュニケーション	毎週開催	コミュニケーションに自信をつ け、良い人間関係を 築くきっかけとする	相手と自分をどちらも大切にする「アサーティブコミュニケーション」を中心に学びます。身近な場面などから「ちょうど良いコミュニケーション」とは何か考え、会話練習を行います。
ディスカッション	隔週開催	コミュニケーションの向上	決められたテーマについてグループで話し合い、話し合ったことを発表します。
色々な仕事を知ろう	隔週開催	就職先のイメージ 作り	事務、販売、介護など、色々な仕事を動画などで学びます。実際に働いている人の1日のスケジュールや、仕事に必要な能力などを知り、就職活動に役立てます。
働く事例検討会	隔週開催	就職後のイメージ 作り	働く上で実際にあった成功事例や失敗事例を紹介し、その事例についてグループで話し合います。
健康な体をつくろう！	隔週開催	体を動かす習慣を 身に付ける	ウォーキングや室内でのトレーニングなどを行い、無理なく楽しく体を動かします。
スピーチ	隔週開催	人前で話すことに 自信を持つ	好きなテーマで1分間のショートスピーチを行います。人に良い印象を与える話し方や人の話を聞く態度を身に付けます。

◆ 個別トレーニング

これまで当事業所を見学していただいた方の中には、長期間在宅生活を送られている方や、病状の悪化などにより離職を経験されている方などが多数おり、就職を強く希望し就労移行支援事業所の見学までは頑張ったものの、就職を強く意識したプログラムなどを目の当たりにすることで、不安が大きくなりそのまま連絡が取れなくなってしまう方も少なくありませんでした。そのような状況で最初から仕事を意識した活動を行うと、負担が大きくなり精神的につらくなってしまうことはよくあります。個別トレーニングはそのようなケースに対応するための支援プログラムとして開始しました。プログラム内容は、文字を書く練習や文章の転記、自ら設定したテーマの研究など、複数用意しています。まずは取り組みやすいトレーニングから開始し、計画的に就職までの道筋を作ることで、スムーズな利用に繋がりやすいことも、このプログラムの特徴です。用意されたトレーニングもただ行うだけにならないよう、将来的に就職活動などに役立つことを意識してもらっています。少しずつ就職へ近づいていることを認識していただき、意欲向上につなげることが目的です。

現在では、経験や知識不足・仕事へのモチベーションの低下など、作業能力は非常に高いものの、それ以外の事柄が就職への大きなハードルになっている方に対しても有効なプログラムとして、より重要な位置づけとなっています。

<個別トレーニングの例>

トレーニング名	内容とねらい
美文字	業務日誌や履歴書をきれいに書けるようにする
自分研究	自分事を知り、面接でのアピール材料とする
テーマ研究	情報を自分で調べてまとめる力をつける
ミラーク新聞	構成や内容を自分で考え、時にはチームメイトと協力して作成する
News チェック	ニュースに興味を持ち、気になるニュースをまとめ、説明する
文章転記	見本通りの書き写すことで集中力をつける
その他	必要に応じて個別に相談に応じながら設定

◆ 就職活動ナビゲーション

働く力を高めるためのトレーニングとは別に、就職活動を上手に行っていくために設けられているプログラムです。このプログラムは、履歴書や面接の対策をしたり、働くための条件や待遇などについて考えていくことが主な内容です。特に就職というものを具体的に強く意識できるプログラムになっています。また、利用から就職までの期間は人それぞれで、ミラークよこすかでも半年程度で就職する方もいれば、利用期限の2年近くで就職する方もいらっしゃいます。タイミングが合わず就職まで想定していたよりも時間がかかってしまった方からすると、自分は就職に近づいているのか不安になることや、就職活動に直接繋がるようなことをもっとやっていきたい等の思いが出てくる場合があります。そのような場合にも、就職ナビゲーションで自身の状況や就職について継

続的に考える機会を設けることで、モチベーションの低下を防ぐ効果も期待できます。

＜就職ナビゲーションの実施項目の一例＞

項目名	内容
私の取扱説明書（トリセツ）を作ろう①	自分のことを整理、確認することでこれから取り組むことを考えます
働く基礎知識講座①	働くことそのものや雇用条件等を知り、就職について現実的に考えます
私の取扱説明書（トリセツ）を作ろう②	面接や働き始めた時に配慮して欲しいこと等を伝えられるようにしていきます
働く基礎知識講座①	給与、社会保険等についての知識を身に付けます
面接練習	繰り返し面接練習を行います
履歴書作成	必要に応じてサポートしてもらいながら履歴書を作成します
面接練習（実践編）	実際に応募する求人情報を元に面接練習を行います

◆ スーツデイ

年に４回、企業見学等の外出プログラムを実施しています。当日は基本的にスーツ着用で出かけるため、ミラークよこすかでは「スーツデイ」と呼んでいます。障害者雇用をしている企業にご協力いただき、働く上での心構えや、社員に求めることなどについての講義、利用者からの質問への

回答などを行っていただいています。利用者の皆さんにも、実際の職場に行くことで、働くイメージ作りや就職する職種を考える際の参考にいただいています。2019年度は3社で見学会を実施し、延べ49名の利用者が参加しました。見学へのご協力は4社からいただきましたが、内1社は年度末の開催を予定していたため、新型コロナウイルスの影響によりギリギリまでご調整いただものの、残念ながら中止となりました。

<見学にご協力いただいた企業>

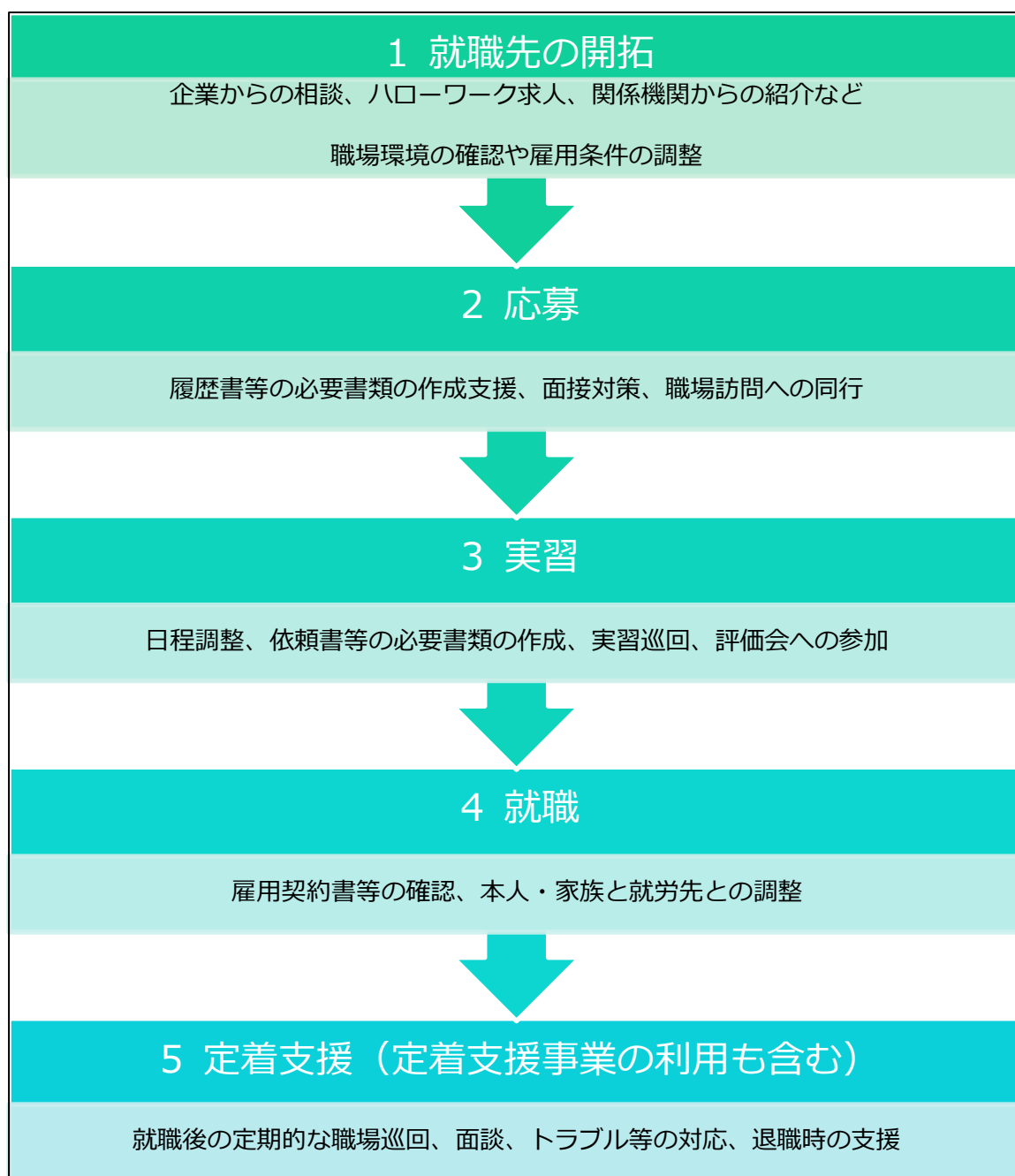
ウェルシアオアシス株式会社 様
日総ピュア株式会社 様
株式会社ココット 様
株式会社崎陽軒 様 (新型コロナウイルスの影響により中止)



③ 就労支援

◆ ミラークよこすかの就労支援の流れ

ミラークよこすかの就労支援は、以下の流れで実施しています。就職した利用者は、ミラークよこすかを退所しますが、就職後の支援もミラークよこすかが継続的に行っています。



◆ 2019 年度の就労実績

2019 年度は 7 名の利用者が企業に就職されました。前年度の利用者数が少なかったことが影響し、例年と比較すると就労者数は少なめとなりました。就労者は、就職後 6 か月が経過するまではミラークよこすかの就労移行支援事業内で定着支援を行っています。就職後 6 か月経過後については、ミラークよこすかで実施している就労定着支援事業の利用等により継続的に支援を行っています。

表 3.2019 年度の就労実績一覧

	就労先	仕事内容	就労移行支援事業利用期間
1	株式会社 D（特例子会社）	清掃業務	23 か月
2	株式会社 K	食品製造業務	12 か月
3	株式会社 H	ケアマネジャー	10 か月
4	F 株式会社	軽作業	26 か月
5	S 株式会社	倉庫内作業	8 か月
6	S 株式会社	倉庫内作業	9 か月
7	S 株式会社（特例子会社）	軽作業	23 か月

(2) 就労定着支援事業

「一般就労へ移行した障害者について、就労に伴う生活面の課題に対し、就労の継続を図るために企業・自宅等への訪問や障害者の来所により必要な連絡調整や指導・助言等を行うサービス」として、2018年4月に就労定着支援事業が創設されました。同事業は、就労後6か月経過後から3年6か月までの間を対象とした障害福祉サービスです。(就労から6か月未満は就労移行支援事業の定着支援期間と位置付けられています)

ミラークよこすかは、2018年7月より同事業を開始し、2020年3月末時点までに35名の方にご利用いただいています。ミラークよこすかでは、就労定着支援事業を実施するとともに、サービス期間が終了した方に対しても、継続して職場定着の支援を行っています。2019年度中に就労定着支援事業の期間である3年6か月を迎えた方は7名おり、全ての方に引き続き期間を定めず定着支援を行っています。

表4.月別の契約者数と支援者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約者	28名	28名	30名	28名	28名	27名	28名	29名	29名	26名	27名	27名
支援者	28名	28名	29名	27名	28名	27名	28名	29名	28名	24名	27名	27名
支援率	100%	100%	97%	96%	100%	100%	100%	100%	97%	92%	100%	100%

※支援者：ご契約いただいている方内、該当月に支援を受けられた方

※契約者：ミラークよこすかの就労定着支援事業をご契約いただいている方

就労定着支援事業の支援は、ご本人にお会いしての対面支援が原則となっており、上記支援者数は月内に対面支援を行った人数です。ただし、3月は新型コロナウイルスの感染防止対策のため、電話連絡等による支援も含まれています。

【ミラくる（就労者対象イベント）】

「ミラくる」は、ミラークよこすかが開催している就労者を対象とした交流会です。他の就労者と仕事の話やミラークよこすか利用中の思い出話をしたり、就労支援担当以外の職員と就職状況について話をしたりする交流の場となっています。2017年度に初めて開催し、その後3～4か月に1回程度継続的に開催をしています。2019年度も7月と10月に開催し、多くの方にご参加いただきました。当初は年度末の3月に開催を予定し、就労者の皆様にもご案内していましたが、新型コロナウイルスの感染予防のため中止致しました。

<各回の参加者数>

7月開催：26名参加

10月開催：26名参加

3月開催：中止



【離職の状況】

毎年多くの方が就職を実現され、可能な限り長く働き続けられるよう支援を行っています
が、中には様々な理由により離職される方もいらっしゃいます。2019年度は、2015年度に
就職された1名と2017年度に就職された1名の合わせて2名が離職されています。ミラー
クよこすかでは、退職の支援やその後の生活に関するご相談もお受けしています。離職後、
通所施設利用の手続きや再就職の支援も必要に応じて行っています。

表5.開所以降の就労者の状況

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	合計
就職者数	4名	9名	12名	9名	7名	41名
(内2019年度末時点での離職者数)	(1名)	(1名)	(1名)	(1名)	(0名)	(4名)
在職者 2019年度末時点	3名	8名	11名	8名	7名	37名
在職率	75%	88%	91%	88%	100%	90%

3. 2019 年度事業目標

重点目標	① 事業所に慣れることに時間がかかる方や、安定した通所が難しい方などが安心して通所訓練が行えるよう、居心地の良い事業所環境を整備します。 ② 就労先開拓に力を入れ、地域内での就労を希望する方の就労実現を目指します。
1. 就労移行支援事業 (20 名定員)	① 新規利用者 11 名の受け入れを目指します。 ② 1 日あたりの平均利用者数 17 名以上を目指します。 ③ 年間 10 名の就労者を輩出します。(上半期：5 名、下半期：5 名) ④ 10 名の利用者に施設外実習の機会を提供します。 ⑤ 三浦半島、横浜市南部地域での就労先開拓に注力し、通勤時間に不安を持つ方の就労実現を目指します。 ⑥ 講座プログラムの現状を調査し、プログラムのブラッシュアップの可能性を検討します。
2. 就労定着支援事業	① 就労定着率 90%以上（基本報酬算定基準による）を目指します。 ② 利用者に対するサービス提供実施率 90%以上を目指します。 ③ 利用者や就労先の状況に応じて柔軟な支援方法でサービス提供ができるよう努めていきます。

	④ 支援対象者の増加に対応すべく、就労者向けイベントの開催方法について検討を行います。
3. 運営全体	① 新規利用者獲得に向けて、関係機関への定期的な訪問等による情報発信を行います。 ② ブログ機能の活用など、情報サイトの更新を定期的に行い、当事者の方に直接働きかける営業活動を継続します。 ③ 日々のミーティングで日常的な振り返りや職員間の情報共有を行うとともに、就労移行支援事業利用者全員に対して毎月ケース会議を実施し、目標達成状況の評価や支援の方向性について検討を行います。 ④ 年間 20 名以上の実習生を受け入れます。 ⑤ 事業所内における災害ゼロを目指し、職員・利用者共に安全に対する意識向上に努めます。 ⑥ 部署内研修を実施するとともに、キャリアパス対応研修を始めとする外部研修を活用し、職員個々のスキルアップを図ります。 ⑦ 事業所内のレイアウトやインテリアなどに配慮し、日々の通所が難しい方でも、可能な限り利用しやすい環境作りを行っていきます。

